



長年勤めた学童保育の指導員を退職した昨年3月から、

「子どもカフェあおぞら」をほぼ隔月で土曜の昼に開いています。小学生やきょうだい、保護者らが対象で、最初は自宅を開放しました。その方が安心して来てもらえらると思っただけですが、参加者が50人超に増えたので、今年5月から地区のコミュニティセンターに変更しました。

私は農家に生まれ育ち、近所の家で食事や寝泊まりもさせてもらうなど、地域に見守られて豊かな子供時代を過ご

中村 静江さん 68
(滋賀県東近江市)



地域の子供にふれあいの場

しました。今は核家族化が進み、私たちが子育てをした頃には活発だった子供会も、少子高齢化で活動が停滞しています。子供が地域から離れてしまっているの、何とかしたいと思いました。

カフェは夫や近所の同世代の10人ほどで運営し、マツタケご飯やサンマの塩焼き、恵

方巻きといった季節の食事を出します。子供は知らない者同士でも、すぐに一緒にかくれんぼを始めると、すごい力だなあと感じます。

大人も子供も集い、顔見知りになって心がふれあい、ほっこりできる場になりたい。△近所のおせっかいさん△になりたいですね。

「わいず倶楽部事務局」〒530・8551 読売新聞大阪本社
電話06・6366・2338 (土日祝除く10:00~17:00)
ファクス06・6366・2346 Eメールeditor@ysclub.jp

*「わいず倶楽部」次回は11月7日に掲載予定です。